

平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

様々な背景を持った生徒が、社会の有為な人材となるような教育活動を実践する学校をめざす。

- 1 基礎学力をしっかりと身に付け、自信を持って「夢」や「志」を開拓できる生徒を育成する。
- 2 社会を生き抜く規範意識とマナーを持ち、社会に貢献できる多様な人材を育成する。
- 3 教職員が切磋琢磨しお互いに支え合い、生徒や保護者、地域から信頼される学びの場をめざす。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 高等学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、生徒に達成感を与える「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善に取り組む。

- ・日常の授業における基礎学力の充実・定着を図ることを主眼に、小規模校のスケールメリットを活かして、生徒の理解度を日々の小テストや復習などで検証しながら、生徒の実態に応じた授業改善、教材の開発・工夫に取り組む。
- ・授業力向上等検討委員会を中心に、教員相互の公開授業や研究授業に基づいた研修会をさらに充実したものにする。
- ・「学校情報委員会」を中心に I C T の効果的な活用や授業の研究・改善について組織的に取り組む。

※生徒向け学校教育自己診断の、授業内容に関する項目に対する肯定率 80%以上を、今後も維持する。(平成 29 年度 84%)

2 生徒の達成感や自尊感情を育み、夢の実現に向けた支援体制の確立

(1) 社会性と規範意識の確立と自尊感情の醸成

- ・生徒が自らの行動を律することのできるよう、基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成に努める。
- ・生徒自治会を中心とした挨拶運動を継続するとともに、全日制自治会との連携共同を進める。

※生徒向け学校教育自己診断の、生活指導に関する項目に対する肯定率 80%以上を、今後も維持する。(平成 29 年度 87%)

(2) キャリア教育の充実と進路保障

- ・進路に対する動機付けが出来るよう、ハローワークやキャリアブリッジなどの外部機関と連携し、1 年次から計画的にキャリア教育を実施する。
- ・卒業時の正規雇用希望者の合格率 80%以上を今後も維持する。(平成 29 年度 88%)

※生徒向け学校教育自己診断の、進路指導に関する項目に対する肯定率 80%以上を、今後も維持する。(平成 29 年度 89%)

- ・就職・進学につながる資格取得にむけて、担当教科がその指導を行い、各種検定の合格者の目標を毎年度 7 名以上とする。(平成 29 年度 9 名)

(3) 行事や自治会活動、部活動を通じて集団の中で協力しながら活動できる力を育成する。

- ・各種行事の出席率が常に 70%以上となることを目標とする。また、部活動加入率が常に 50%以上となることを目標とする。

(平成 29 年度 行事出席率約 60% 部活動加入率約 55%)

(4) 在籍生徒の適正管理と新入生の進級率の維持向上

- ・保護者や関係機関との連携を強化するとともに、「生徒支援委員会」を中心とし、支援や指導が必要な生徒に適切な支援・指導を組織的に行う体制を一層推進する。
- ・生徒情報の共有を確かなものにし、生徒理解を深め、中途退学や留年の防止に努める。
- ・長期にわたり登校実績のない生徒の状況を把握し、適正な在籍管理を行う。

※新入生の進級率 70%以上を維持する。(平成 29 年度 76%)

3 開かれた学校運営と地域連携

(1) 全教職員が学校経営に参画する自覚を持ち、組織の向上のために忌憚のない意見交換が出来る環境を整えると同時に、協働連携の学校文化を醸成する。

(2) 全定併置校の特色を活かし、互いの協力関係を密にして、さらに有効有意な関係を構築する。

(3) 地域連携を進め、地域に理解され、地域から信頼される学校をめざす。

- ・豊中市立の中学校 18 校を中心に中学校訪問や中高連絡会を行い、連携と情報共有を推進する。
- ・豊中市役所、警察署、社会福祉協議会、子ども家庭センター、国際交流センター等の外部機関との連携を推進し、生徒の健全育成に役立てる。
- ・学校運営協議会と定時制振興会の活性化を促進し、学校改善のために意見を学校経営に反映させる。
- ・学校 W e b ページや広報物の充実を図る。

※教職員向け学校教育自己診断の、地域連携に関する項目に対する肯定率 80%以上を、今後も維持する。(平成 29 年度 85%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1)「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善への取り組み</p> <p>ア・授業力向上等検討委員会と各教科の連携による授業改善</p> <p>イ・公開授業と授業アンケートを活用した授業改善の推進</p> <p>ウ・ICTを活用した研究授業による授業改善の推進</p>	<p>ア・授業力向上等検討委員会と各教科の連携で、生徒の実態に応じた授業改善に取り組むとともに、業務の効率化を図る。</p> <p>イ・授業力向上等検討委員会で企画した公開授業（6月、11月）に合わせ、教員相互の授業見学週間を設定し、他の教員からの助言を授業改善に活用する。</p> <p>・公開授業後に、授業改善のために全員参加の研修会を年間2回実施する。</p> <p>・授業アンケート（7月、12月）は第1回を課題把握、第2回を成果検証と位置づけ授業改善を推進する。</p> <p>ウ・「学校情報委員会」が核となり、ICTを使った効果的な授業方法を検討し、その公開授業を実施する。</p>	<p>ア・生徒向け学校教育自己診断結果における学力面に対する肯定率 80%以上 (平成 29 年度 84%)</p> <p>イ・全教員による年 4 回以上の授業見学の推進。 ・教員向け学校教育自己診断の授業における工夫に対する肯定率 90%以上 (平成 29 年度 100%)</p> <p>ウ・生徒向け学校教育自己診断結果における授業の工夫に対する肯定率 80%以上 (平成 29 年度 92%)</p>	
2 生徒の達成感や自尊感情を育み、夢の実現に向けた支援体制の確立	<p>(1) 社会性と規範意識の確立と自尊感情の醸成</p> <p>(2) キャリア教育の充実と進路保障</p> <p>(3) 行事や生徒自治会活動、部活動を通じて集団の中で調和しながら活動できる能力を育成する。</p> <p>(4) 在籍生徒の適正管理と新入生の進級率増加</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 遅刻しない、欠席の際には事前に担任に連絡する、人の話を静かに聞く、言葉づかいに気をつける等、社会性と規範意識の確立をめざす。登校時の教員と生徒によるあいさつ運動を継続する。 全定併置校の特色を活かし、全日制自治会と連携した取組を進める。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 年次から計画的に進路指導部と学年が連携しキャリア教育を実践する。 外部講師の講演を積極的に実施し、進路に対して希望の持てる動機付けを行う。 各種の資格試験に挑戦し合格することで、生徒に自尊感情や自己肯定感を獲得させ進路指導につなげる。 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動に参加し、仲間意識を育むことによって、生徒の達成感や自尊感情を高める。 生徒自治会活動に参加し、地域と交流することで、本校への帰属意識や連帯感を高める。 各種学校行事への参加を促し、仲間意識と帰属意識を高める。 <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒との面談や保護者との懇談、日常の電話連絡や家庭訪問を通じ、一人ひとりの生徒に対して、きめ細かく対応する。 「生徒支援委員会」を中心と、組織的に生徒の支援に努める。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校教育自己診断結果における規範意識に対する肯定率 80%以上 (平成 29 年度 84%) 全日制と連携した取り組みや記念事業への取組を 2 回以上実施する。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校教育自己診断結果における進路指導に対する肯定率 80%以上 (平成 29 年度 89%) 卒業時の正規雇用希望者の合格率 80%以上 (平成 29 年度 88%) 各種の資格試験の合格者数の目標を 7 名以上 (平成 29 年度 9 名) <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動加入率 50%以上 (平成 29 年度 55%) 行事への参加率 70%以上 (平成 29 年度 60%) <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> 新入生の進級率 70%以上を目標とする。 (平成 29 年度 76%) 生徒向け学校教育自己診断結果における本校に対する満足度の項目の肯定率 80%以上 (平成 29 年度 91%) 	
3 開かれた学校運営と地域連携	<p>(1) 全教職員が学校経営に参画しているとの自覚を持ち、忌憚のない意見交換が出来るよう環境を整える。</p> <p>(2) 地域との連携を進め、地域に理解され、地域から信頼される学校をめざす。</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員会議で自らの考えをはっきりと述べられるように教職員に働きかける。 教員がより主体的に学校運営に関われるよう、必要に応じてワーキンググループ等を立ち上げる。 教職員の防災や防犯に関する知識の再確認と研修を実施する。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 豊中市立各中学校を中心に中学校訪問や中高連絡会を実施し連携を進める。 夜間学級と連携し、相互の授業見学会等を実施する。 学校説明会で、保護者や卒業生等に、学校生活について話してもらう場面を設定する。 豊中市役所、警察署、子ども家庭センター等の外部機関との連携を行い生徒の健全育成に役立てる。 学校運営協議会と振興会の活性化を促進し、積極的な意見を述べてもらう。 学校Webページの更新を継続し、メールマガジン等を発行する。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員向け学校教育自己診断結果における学校運営に関する項目の肯定率 90%以上 (平成 29 年度 100%) 教員向け学校教育自己診断結果における防災や防犯に関する項目の肯定率 80%以上 (平成 29 年度 92%) <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 中学校訪問と中高連絡会を 2 回実施し本校の良さを地域に伝える。 教員向け学校教育自己診断結果における地域連携に関する項目の肯定率 80%以上 (平成 29 年度 85%) メールマガジンを月 2 回以上発行する。 	